

平成28年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT28102 テキスタイルデザイン入門：リポートする模様のデザインと捺染



開催日：平成28年7月16日(土)

実施機関：多摩美術大学

(実施場所) (多摩美術大学 八王子キャンパス)

実施代表者：深津 裕子

(所属・職名) (美術学部・准教授)

受講生：高校生 21名

関連URL:

【実施内容】

受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

本プログラムは、「日本の伝統的染織技術の持続可能なテキスタイルデザインへの展開に関する研究」(平成25-27年度基盤研究(C)25350061)の研究成果をもとに実施した。日本の伝統的な着物デザインから知性、想像力、美意識、技術を学びながら今日の社会や文化に即応したテキスタイルを創出することでデザインの面白さを体験することを目的とした。グローバル化した現代社会で大量生産されたファストファッションを当然の衣服とする受講生に、江戸時代の着物に表象される既成概念にとらわれない自由で斬新な日本人の美意識を紹介し、着物の鑑賞、模様のデザイン、模様の身体への着装の楽しみ方を伝えた。多数の応募があり、定員を20名から22名に増員を行ったが、当日は1名欠席者が生じた為、21名でプログラムを実施した。

受講生に分かりやすく研究成果を伝え、自ら活発な活動をさせるために本プログラムで留意・工夫した点は、以下のとおり。

1. プログラムは(1)模様のデザイン、(2)版木の作成、(3)講義、(4)デザイン実習、(5)プリント実習、(6)着装実習の6つの項目で構成した。模様のデザインを事前課題として受講生に課し、既存の模様ではできない各自のオリジナリティが発揮できるよう配慮した。
2. 大学生と受講生の交流を目的に、実施協力者(大学生・院生)が事前準備として(2)版木の作成に携わり、プリント実習、着装実習でも受講生の補助を行いデザインワークにおける交流を促すようにした。
3. 講義「日本の美 着物デザイン」では、江戸時代の着物にみる大胆で斬新かつユーモア溢れるデザインカを一緒に考察することで、既成概念にとらわれずにデザインすることの面白さを知識として根付かせた。
4. 実習①「一枚の布をリポートする模様でデザインする」では、模様の様々なリポート方法の例について紹介し、受講生のデザインへの可能性と具体的なイメージをかきたてた。
5. 実習②「布に模様をプリントする」の理解を深める為、実習②の前にキャンパスツアー(テキスタイルデザインのラボ)をスケジュールに組み込んだ。キャンパスツアーでは本プログラムで学ぶ伝統的な染色技術から大学に設置された先端的な染色施設を使用した染色法や布に模様を施す様々な方法について、現役大学生・大学院生が説明を行い、質問応答等が行われやすい体制を整えた。
6. 実習③「布を着てファッションショー」では、受講生がデザインした完成作品を身にまといウォーキング発表を行った。着装のスタイリングは実施協力者が補助した。実習③では教員による講評の他、受講生の間に実施協力者を配置する他、受講生同志が活発な意見交換ができるような場づくりを行った。

7. 実習では、受講生2~3名につき実施協力者の学生スタッフ2名を配置し、偏りなくコミュニケーションをとりながら双方が互いに学びながら楽しく捺染を体験できるように配慮した。

#### 当日のスケジュール(平成28年7月16日(土))

- 9:40-10:00 受付(場所:多摩美術大学 八王子キャンパス レクチャーホール 集合)
- 10:00-10:15 開講式(あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明、自己紹介)
- 10:15-10:35 講義「日本の美 着物デザイン」(講師:深津 裕子)
- 10:35-11:20 実習①「一枚の布をリピートする模様でデザインする」(講師:川井 由夏)
- 11:20-12:20 昼食・休憩(場所:大学食堂)
- 12:20-13:00 キャンパスツアー(※テキスタイル棟の染織施設見学)
- 13:00-13:45 実習②「布に模様をプリントする」(講師:山田 菜々子)(場所:テキスタイル棟)
- 13:45-13:55 休憩
- 13:55-15:00 実習②「布に模様をプリントする」(続き)
- 15:00-15:10 休憩
- 15:10-16:30 実習③「布を着てファッションショー」、講評、ディスカッション(場所:共通教育棟)
- 16:30-16:45 クッキータイム
- 16:45-16:50 総括(講師:深津 裕子)
- 16:50-17:00 終了式(アンケート記入、未来博士号授与)
- 17:00 終了・解散

#### 実施の様子



1. 講義「日本の美 着物デザイン」  
日本の着物デザインについて説明



2. 実習①「一枚の布をリピートする模様でデザインする」  
模様のリピート方法の例について説明



3. 実習①「一枚の布をリピートする模様でデザインする」  
受講生がデザインをする様子



4. 実習②「布に模様をプリントする」  
プリントのやり方・注意事項等の説明





5. 実習②「布に模様をプリントする」  
作業風景



6. 実習③「布を着てファッションショー」  
ファッションショーの準備風景



7. 実習③「布を着てファッションショー」  
ファッションショー本番



8. 実習③「布を着てファッションショー」  
皆でポーズ

#### 事務局との協力体制

- ・研究支援部が振興会へ連絡調整と、提出書類確認・修正等を行った。
- ・経理部及び研究支援部が委託費管理と支出報告書の確認を行った。

#### 広報活動

- ・実施者や研究支援部、総合企画室、入学センター、生涯学習センターが協力して近隣の教育委員会、近隣高校、美術系の専科をもつ高校、美術系予備校、マスコミ等へチラシの配布や連絡をとり、本事業についてPRを行った。
- ・実施者と研究支援部、総合企画室が連携し、大学HP、SNS等で広報活動を行い、受講生の募集を行った。
- ・募集案内の原稿は、実施代表者の指示のもとに実施協力者が作成を行った。

#### 安全配慮

- ・安全確保の為、受講生2名に対し1名の割合で実施協力者(学部生、大学院生)を配置した。
- ・不慮の事故対策の為、実施協力者には、事前に安全講習を行った。
- ・参加者の事故、怪我、体調不良の対応として、大学の保健室と協力体制を整えた。受講生は実習に集中しがちである為、熱中症対策として水分の摂取や休憩等の声掛けをこまめに行った。
- ・作業を行う際には、必ず作業着やゴム手袋を着用させた。
- ・受講者の食事については、アレルギー等について、事前に本人や保護者に確認した。
- ・受講生と実施協力者については、短期のレクリエーション保険に加入を行った。
- ・その他の実施者については、大学が加入している保険を適用。

#### 今後の発展性、課題

- ・ 本プログラムにおいて、理論(教養科目)と実践(実技科目)を連動させたプログラムを実施したところ、従来の既存のテキスタイルデザインに従属することのない受講生の自由で豊かな発想を引き出すことに成功した。本学の美術教育では、教養科目と実技科目が個別に設定されており講義担当者と実技担当者が相互協力した授業事例は少ないが、本プログラムは、先端的なテキスタイルデザイン教育のあり方を模索する事例となった。
- ・ 模様のデザインから、プリントした布を着装するまでをプログラムとすることで、テキスタイルデザインの目的を明確にした。デザインワークが単に模様をデザインすることだけではないこと、様々な仕事を分担したチームワークが必要であることの体験を目指した。実施協力者の介入方法を熟慮することにより、さらにプログラムを充実したものにできると考える。
- ・ 実習②「布に模様をプリントする」及び実習③「布を着てファッションショー」では、受講生が作業に集中した為、また実習②と実習③の間にキャンパス内のテキスタイル棟から共通教育センターへの移動時間(徒歩5分)などがあったため、当初の予定より20分延長となった。計画段階での時間配分への十分な配慮の必要性を感じた。

#### 【実施分担者】

川井 由夏 美術学部・教授

山田 菜々子 美術学部・非常勤講師

遠藤 智子 美術学部・助手

【実施協力者】       10   名

#### 【事務担当者】

佐々木 絵美 研究支援部 研究支援課・主事補